

Solan Primary School
4th grade news letter

Venture Fourth

2023 . Aug. 2023

種をまき芽を出し花を咲かせよう

昨日のことです。

別の学年の長谷川先生から、次の連絡が入りました。（先生方には専用の連絡アプリがあって、そこでいつでも瞬時に連絡ができるようになっています。）

メッセージには次のように書いてありました。

（尚、驚いたことにブライアン先生からサム先生にも同じようにメッセージが入っていたそうです。）

【良いご報告】本日の昼休み@体育館

4年生の児玉かえんさん、村松そうたろうさん、あと一人名前がわかりません（秋田くん？すいません、わかりません）

見守りのため、私は体育館におりました。

1年生が遊べる時間帯ですので、多くの1年生が遊んでいました。

そこにが次の体育のために早めに上記3名が体育館にきました。

ドッジボールとか始めたら、声かけしないとなど思いつつ、全体を見ていました。

すると、1年生がバスケットゴールに向かって投げたボールを返してあげながら、端っこの方で1年生の遊び時間が終わるまで待っていていました。1年生が教室に戻ってから、3人はドッジボールを始めました。

当たり前なことだけど、すてきなと思いました。

今、1年生が遊びで使う時間だと分かっていること
加えて、端っこで待っていてくれたこと

それを当たり前のように実行していること

次のように声をかけてあります。

「端っこで待っていてくれて、ありがとうね。大人だなあと思った」

そういうことができているすてきなと思いました。名前をきちんと聞いておけばと、後で気がつきました。

今の4年生には取るに足りないことかもしれませんが、ご報告です。

自分たちの都合を優先しないで、しっかり次の時間を待っていた姿が素敵だったとの報告でした。

ブライアン先生からのメッセージでは、「1年生がボールを片付けるのを手伝ってくれていました」とのこと書かれていました。

体育の準備を早く済ませるだけでなく、1年生のお手伝いを自然と行っている姿を想像して、私は本当に嬉しくなりました。

そしてもう一つ。

先ほどの長谷川先生のメッセージで、一番私が嬉しかったポイントがあります。

それはどこだと思えますか？

と、先ほどの朝の会でも尋ねてみました。

子どもたちは、これは流石に分からない様子だったので、私から伝えました。

特にうれしかった一文。

それは、ここです。

今の4年生には取るに足りないことかもしれませんが、ご報告です。

この文章には、言語化されていない部分が多分に含まれています。

「取るに足りない」とは、「わざわざ伝えるまでもない」という意味。

長谷川先生は、「今の4年生」には「取るに足りない」と今回のことを表現して下さっているのです。

日頃の4年生の姿を見ていて、きっと他にも素晴らしいところをたくさん発見してくれているのでしょう。

事実、私は色々な先生から次の言葉を職員室でかけてもらいます。

「4年生、本当に落ち着いていますね。」

「楽しく学んでいる姿が、とても素晴らしいです。」

「専科の授業の受け方も、大きく変わったんですよ。」

そして、昨日たまたま見学に来られた先生もおっしゃっていました。

「4年生のみんなの授業を受ける姿を見て、度肝を抜かれました」と。

そうした、日々の積み重ねが、みんなの信頼貯金を確実にためてくれて言ってくれていることは間違いありません。

だからこそ、先ほどの「今の4年生には取るに足りないことかもしれない」という表現が出てくるのです。

4年生が始まってからのわずか4カ月の間に、みんながいろんな場面でためてきた信頼貯金が、今様々な形で芽吹き、花を咲かせようとしています。

全ては、自分たちがこれまでに蒔いてきた種（原因）が結果となって今返ってきているということです。

積み重ねてきた努力が実を結ぶことを「結実」（けつじつ）と言ったりしますが、実を結ぶためには、種をまいて顔を出した芽を少しずつ育てて花を咲かせていく必要があります。

少しずつ実ってきているみんなの日々の努力や積み重ねを、これからも暖かく見守り、応援したいと思います。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

